

議事 (1) 「ご本人の声」について

<ご本人①>

- ・ご本人が会議でご発言
- ・50代、女性、アルツハイマー型認知症の診断（平成 26 年）
- ・診断後仕事は退職し、平成 27 年に当事者グループ「若年性認知症の人と歩むひょうごの会」に入会
（随行：ひょうご若年性認知症生活支援相談センター若年性認知症
専門相談員 1 名）

主なご発言内容

- 若年性認知症と診断された後、仕事を続ける意欲はあったが、上司から自主退職を勧められ、やむを得ず退職した。
- 現在は就労継続支援 B 型事業所に週 5 回通所し、作業しており、自分の居場所となっている。居場所ということだけではなく仕事をしたいという思いもあったため、雇用型である A 型に通いたいが、通勤が難しく、断念した。
- 当初病気を隠すよう言っていた夫も、若年性認知症の交流会へ通い、他の認知症の方や同じ立場の家族と接する中で少しずつ意識が変わり、理解してくれるようになってきた。

<ご本人②>

- ・前田認知症対策監が事前にインタビュー（以下の写真の通り）
- ・70代、女性、レビー小体型認知症の診断（平成 29 年）
- ・認知症初期集中支援チームが支援中

主なご発言内容

- （前提：薬の飲み忘れ、家賃滞納、電気・ガス・水道も止まり、お弁当のごみが散らかっている、という状態を住宅の管理センターが発見。あんしんすこやかセンターに相談し、認知症初期集中支援チームに繋がった。）
- 何をどこに置いたのかわからなくなってしまい、パニック状態になることがあり、こういったときは「(頭の中で) うずが巻いているよう」に感じる。この「うず」がなくなると調子が良くなる。
- 独居で相談する人がいないので、病気で倒れてしまったら困る。
- 今住んでいる地域は（認知症初期集中支援チーム員、あんしんすこやかセンターや近所の人などの周りの人がサポートしてくれるため）、安心して住みつけられる。これからも住みつけたい。